

1 「愛川の底力住民委員会」（愛川町）

【概要】

愛川の底力住民委員会は、地域で暮らす住民同士が福祉について考え、話し合いを持ちながら身近でできる支援の仕組み作りを行う住民組織。その活動の一つとして、余ったカレンダーを必要な人に配布するカレンダー配布事業がある。

※障がい児・者サポーター養成講座も同委員会から出された意見が事業化したもの。

【効果】

民生委員や地域住民によるカレンダー配布を通じて、引きこもりや孤立化している住民との関係づくり等、人と人がつながるきっかけ作りのツールとしても活用できる。

2 「地域福祉コーディネーター会」（小田原市）

【概要】

平成20年度から開催している「地域福祉コーディネーター養成研修会」を受講された多くの方が、地域で自主的に「地域福祉コーディネーター会」を発足させ、さまざまな活動を行っている。その活動の一つに「生活応援隊」の活動があり、掃除、洗濯、食事作りやゴミ出し等「ちょっとしたできないこと」を近隣の住民が支援する活動を行っている。

【効果】

- ・地域住民同士の支え合いによる地域づくり
- ・地域で活動したいと思っている人と実際の活動（ニーズ）とのマッチング

3 「ぴっかりカフェ」（横浜市青葉区）

※参考資料2参照

【概要】

県立田奈高校の図書室内に開設したカフェを中心とした子どもと大人、地域住民とのつながりづくり

【効果】

- ・困りごとを抱えた学生の居場所づくり
- ・社会に出ていく前の多様な大人のロールモデルの提供
- ・卒業後の自立を高める、「文化的フック」の習得
- ・子どもだけでなくカフェで出会った大人同士のつながり

4 「町内福祉村（岡崎地区）」（平塚市）

※参考資料3参照

【概要】

町内福祉村は、住み慣れた地域で誰もが安心して暮らしていくために地域の中で住民同士が助け合い、支え合う仕組みづくりの拠点。岡崎地区の町内福祉村の活動の一環として、地元の中学生や大人による小田急厚木道路の岡崎地下道の壁画制作を実施。約6年かけて行った。そもそもは、「平塚をみかく会」を中心とした様々な人や機関が連携した取り組みがきっかけとなっている。

【効果】

- ・落書きや貼り紙の減少。落書きの再発を防止
- ・一人の住民の気づきから始まった地域の連携と活動の広がり
- ・絵画制作を通じて、子どもたちのまち並みや環境への意識の育み